

## 事業名 えひめこどもの城建設事業

丘陵地の地形を活かし、自然環境の保全を重視した整備手法による子どもたちの創造と活動の拠点づくり

受賞機関 愛媛県土木部道路都市局都市整備課  
事業実施期間 平成7年8月22日～平成10年10月20日  
事業費 14,665百万円



森の広場全景

### 技術等の特徴と評価

極力現地形の切り盛りを抑え、既存の調整池を親水施設として取り込む等、丘陵地の地形を活かし自然環境の保全を図った点が評価できる。また、材料の再利用に主眼をおき、近隣で発生した土中の石材を園内整備に活用しているほか、間伐材を利用して子供やお年寄り、車椅子利用者に配慮した園路舗装等の工夫が評価できる。

### 事業の概要と効果

えひめこどもの城は、松山市中心部から南方約10kmの丘陵地に位置し、隣接する県総合運動公園と県立とべ動物園と一体となり100haに及ぶ一大レクリエーションゾーンを形成する。当施設は、子どもたちの遊びや交流を通じてさまざまな生活体験や学習活動ができる総合的な拠点として34.6haを整備したものである。

整備にあたっては、「こどものまちゾーン」「イベント広場ゾーン」「創造の丘ゾーン」「冒険の丘ゾーン」「ふれあいの森ゾーン」の5ゾーンにそれぞれ核となる建物(体験施設)を配し、各ゾーンは汽車型連絡バスが運行する周遊園路や入園者が自然に親しみながら回遊できる散策路で結んでいる。

また、主要園路は車椅子での移動に配慮するなど、人にやさしい道となるよう歩道部には、古タイヤをリサイクルした弾性舗装や間伐材を使用したウッドチップ舗装を取り入れ、園内誘導のサインも、親しみやすく楽しい誘導となるようジャングルジムのイメージで統一し、子どもたちやお年寄りにも楽しく散策してもらえるよう配慮した施設である。

効果として、工法については、自然環境の保全に留意した手法を採るべく、丘陵地の地形を活かし、極力切り盛りを抑え、盛土部の擁壁は緑化が図れる補強土工法を



親水護岸とボートのりば

多用し、法面についても在来種の木本を主体とした緑化を図り、植栽は季節感を体験できるよう落葉樹を多用し、既存樹木も施設計画を見直して保存を図るなど園内での移植に努めた。

工事費については、材料の再生利用に主眼を置き、砂防工事の残土から選別採取した2,200トンの石材を利用し、植栽においても、近隣の公園改修工事により発生する不要樹木430本、張り芝5,000㎡を移植した。また、残土の場外搬出を極力抑えるため、盛土部には補強土工法を採用し、資源の有効利用による工事費の削減を図った。

なお、水資源対策にも配慮し、浄化槽において高度処理された中水をトイレの洗滌水と植栽散水に再利用する節水型施設として整備した。

平成10年10月24日の開園以来、11年2月末現在既に31万人を越える入園者を迎えており、計画の年間入園者見込み50万人を大きく上回るものと予想されている。

県立とべ動物園からえひめこどもの城を望む

受賞賛助会員 ㈱愛媛県建設業協会、㈱愛媛県建設業協会